

豊中市の公教育の充実をめざして

確かな学力の向上に向けた学校改善

令和6年度（2024年度）
学校教育課

学力向上にかかわる現状と課題

1 いま、求められる学びの姿

「知識及び技能」
「思考力、判断力、表現力等」
「学びに向かう力、人間性等」の
3つの柱がバランスよく育まれること
⇒「確かな学力」の向上

自分のよさや可能性を
認識し、多様な人々と
協働しながら持続可能な
社会の担い手になること

→特に「学びに向かう力、人間性等」は他の二つの柱をどのような
方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素とされている

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

→多様な子ども一人一人が自立した学習者として学び続けられるように、
教員は子どもたちの学びを支援する伴走者である必要がある。
すべてを子どもに委ねるのではなく、時に主導しながら子ども自身が
自己調整・自己決定する力を育む必要がある。

2 本市の学力課題における現状

本市全国学力・学習状況調査結果において
市全体 …どの教科もほぼ毎年全国平均正答率を上回っている
→「確かな学力」の中でも育成を図るべき力については学校ごとに課題がある

※ただし全国学力・学習状況調査で測定できるのは学力の特定の一部。
児童生徒一人ひとりのつまずきを把握し学習指導の充実や学習状況の
改善等に役立てる必要がある。

→学校全体としては、「確かな学力」の育成に向けて、全国学力・学習状況調査も
参考にしつつ、どこに解決すべき課題があるのかを的確に把握する必要がある。

3 学校ごとの課題把握と取組みの現状

日々の教育活動をと
おしてみとる子ども
たちの実態や、各種
調査結果をもとに
課題把握

課題解決
に向けた
目標設定

取組みの
実施

学校教育目標と日々の学校教育
活動がつながっていない等、
カリキュラム・マネジメントに
課題がある場合も。

→学校課題を正確に把握し、解決に向けた取組みを焦点化し、PDCA
サイクルを回して検証・改善することが重要。
学校教育目標、めざす子ども像、取組み（めざす授業）を確実につなげ、
カリキュラム・マネジメントを充実させる必要がある。

4 学校の取組み改善への支援

「確かな学力」の向上

学校が子どもたちにとって
安心して学べる場であること

子どもたちが学校で過ごす時間の中で
最も長い「授業」の改善

安心・安全な場づくりと授業改善の両方を同時に進めることが、誰一人
取り残さず子どもたちが楽しいと思える魅力ある学校づくりにつながる。

→「確かな学力」の向上に向けた学校全体の取組みを客観的に評価し、
エンパワーメントする学校支援が必要。

学力向上にかかる これまでの市の取り組み

重点課題

- ・「自分の考えを記述したり、説明したりする力」
- ・「情報や資料を活用し、自ら課題解決に向かう力」の育成

重点取り組み

- ・「めざす子ども像・15歳の姿」に向けた9年間の学びの連続性・系統性をふまえた取り組みの推進
- ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を通した各教科等の資質・能力の育成
- ・授業者と子どもたちがともに「めあて」を意識し、学びの深まりを実感する授業づくりの推進

全市的な取り組み

指導主事による指導助言（定期訪問・進捗把握）

小中一貫教育推進事業

9年間の系統的な指導・円滑な接続の推進・校区に予算配当

授業改善推進連絡会

全校の授業改善の組織的推進を担当する教職員が参加
学校体制での組織的な授業改善の推進

とよなかの子どもの学びを考えるフォーラム

組織的な授業改善実践事例の発信・パネルディスカッション

授業ハンドブック（仮）の作成

授業改善の取り組みを推進する学校への取り組み

学びの根っこ・幹育成プラン（小中一貫教育推進事業）

教育委員会が指定する小、中、義務教育学校で実施
指導主事の訪問・教育アドバイザーの派遣・予算配当

各種調査の分析の活用

全国学力・学習状況調査・小学生すくすくウォッチ・中学生
チャレンジテスト・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の
結果分析

とよなか都市創造研究所との連携

府の加配を活用した取り組み

授業改善加配合同連絡会

指導方法の工夫改善定数にかかる加配担当が参加
（英語Co・授業改善の推進・確かな学びをはぐくむ学校づくり推進校）
授業改善の実践事例の収集、授業モデルの検討

指導方法の工夫改善定数を活用した授業改善

府加配メニューを活用した授業改善に向けた計画的な配置

府スクールエンパワメント推進事業校の取り組みの域内発信

確かな学びをはぐくむ学校づくり推進校・スマートスクール実現モデル校

特化した取り組み

小学校体力づくり事業

専門的な指導者の派遣（器械運動・ボール運動等）

外国人英語指導助手（AET）派遣事業

中学校区を基本とした配置・英語でのやり取りの充実・英語力の向上

外国語教育担当者会

英語Coによる授業実践事例の発信・教育アドバイザーからの助言等

学校図書館活用教育

学校図書館活用した探究型・教科横断的な授業づくりの充実

成果（一例）

* 校内研修への指導主事招聘回数 の増加

⇒ 全市的な授業改善の広がり

* 府加配配置校での組織的な 研究の推進

* 全国学力・学習状況調査

⇒ どの教科もほぼ毎年全国平均
正答率を上回っている
⇒ 特に中学校英語では
市内中学校結果において、
どの領域でも全国平均正答率
を大きく上回っている

課題

* 個々の学校の課題に応じた 取り組みへの客観的な検証

* 豊中市がめざす授業の市内全校 への普及

* 市内全校での組織的なカリキュ ラムマネジメント・授業改善の 推進

豊中のめざす 公教育の充実のイメージ

確かな学力とは

知識及び技能



学習の基盤となる資質・能力
や基礎的・基本的な知識・技
能等が身につけている

思考力、判断力、 表現力等



自ら学習を調整しな
がら粘り強く学習に
取り組んでいる

学びに向かう力、 人間性等



他者と協働して課題
を解決すること等が
できる

もっと調べてみたい
この場合はどうなるのかな

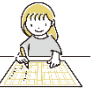


もっと違う問題も解いてみたい
ほかの教科でも習ったよ



この考え方を使おう
前に習ったことが使えそうだ

わたしはこう思うよ
この表が使えそうだね
ここここは似ているよ
理由がここに書いてあるよ



地域の人にインタビューしよう
海外の学校とオンラインで発表し合おう

ほかの人はどんな意見かな



みんなに考えを伝えたい
真剣に聞いてくれてうれしいな
もっと発表を聞きたいな

子ども

“子どもが主体”の学びの充実 → 自立した学習者へ

自分にあった学び方・進め方を選び決定する

他者と協働しながら学ぶ

一定の目標に向けて

異なる目標に向けて



個別最適な学び

一体的な
充実

協働的な学び

教職員

子どもたちの学びを 支援する伴走者



必要に応じた重点的な指導や
指導方法・教材等の工夫

一人ひとりに応じた学習活動
や課題に取り組む機会の提供



他者と協働しながら学ぶ子ど
もの学びをコーディネート

学級集団

安心して学べる居場所

自己肯定感・自己有用感を
はぐくむ授業づくり

自己決定の場を提供する
授業づくり

互いに認め合い、励まし合い、
支え合える学習集団づくり

学校

組織的な推進体制



学校教育目標・めざす子ども像
の共通理解

カリキュラムマネジメント・
PDCAサイクル

チーム学校による組織的な
課題解決

市教委

学校を伴走支援

自ら学ぶ子ども（自立した学習者）
の具体化を支援

学校組織づくりへの支援

教職員の資質能力の向上

民間委託
による
調査・分析
(児童生徒・教職員
アンケート等)

確かな学力の向上

【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】

学習の基盤となる資質・能力や基礎的・基本的な知識・技能等が身についている



【学びに向かう力、人間性等】

自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組んでいる



他者と協働して課題を解決すること等ができる



【達成指標】

全国学力・学習状況調査教科調査 通過率*100%の学校数

全国学力・学習状況調査質問調査 肯定的回答

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」

「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」

「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」

(参考) 「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」

(参考) 「学校に行くのは楽しいと思う」

通過率*：全国学力・学習状況調査において全国平均正答率70%以上の問題について当該問題における自校の平均正答率が70%以上を通過とし、当該問題のうち、何問通過しているかを割合で表したものの。

確かな学力向上支援チーム

各校・各校区が“子ども主体”の学びの充実にめざして組織的に取り組む「確かな学力の向上」に向け、教育委員会内で支援体制を組み、各課が連携し専門性を最大限にいかした支援を行う。モデル実施校には担当指導主事と校長OBが学校訪問し伴走支援を行う。モデル実施校は、「確かな学力の向上」に関する指標の向上を目標とし、公開授業や研修会・連絡会等をとおして自校の実践を全市的に周知する。

確かな学力向上実践モデル校

確かな学力の向上に向けて、チームの支援をもとに校内体制の整備や校内研究の充実等をはかり、安心安全な学校づくりと組織的な授業改善の推進を行う



市内学校へ モデル校での実践を周知



チーム指導主事+校長OBによる学校訪問



- ・ 具体的な目標設定を学校とともに検討
- ・ 学校状況を把握し、分析・評価（目標と取組みがあっているか、PDCAを回せているか、組織的な問題解決が学校として働いているか、チーム学校としての機能ができ安定した学校づくりができているか等）
- ・ 民間委託の分析や学識助言をフィードバックしながら、集団づくり・授業づくりについて指導助言



チーム会議の開催

- ・ 月1回程度
- ・ 学識・民間委託業者を定期的に招聘
- ・ モデル校の学校状況・実践についての情報共有
- ・ モデル校への具体的な支援方策検討
- ・ 全市的な発信・支援方策検討



チーム構成メンバー

・ 指導主事管理職 ・ 担当指導主事 ・ 校長OB ・ 学識経験者 ・ 民間委託業者

本市の社会教育行政 ～図書館及び公民館の連携あり方について～

R6.12.17 総合教育会議

他市事例①

ぎふメディアコスモス（岐阜県）

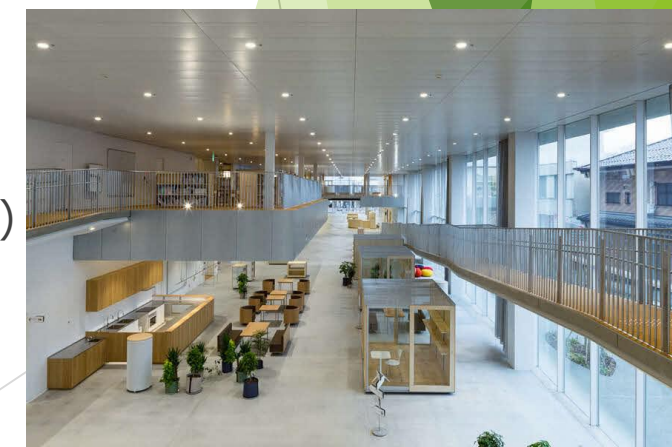
- ▶ H27.7開館（岐阜大学医学部跡地） 建築費約60億円
「知の拠点」中央図書館 蔵書55万冊（最大90万冊所蔵可）、座席数910席
「絆の拠点」市民活動交流センター（スタジオ100席等）、多文化交流プラザ
「文化の拠点」展示ギャラリー、ホール（200席）
からなる複合施設
- ▶ 延床面積 15,444.23m² 地上2階、地下1階
- ▶ 来館者数 H30 130万人来館
（図書館） 旧 15万人/年 → 現 51万人/年（R4）
- ▶ 全館コンセプト 複合文化施設 屋根のついた公園
- ▶ 備考 館長のもと、館一丸となってイベントを実施することにより賑わいを創出できている



他市事例②

須賀川市民交流センター（tette）（福島県）

- ▶ 平成31年1月開館 建設費約75億円
中央図書館（蔵書約20万冊）、こどもセンター、円谷英二ミュージアム、市民活動サポートセンターの複合施設として設置。
- ▶ 延べ床面積 13,698.5㎡ 地上4階、地下1階
- ▶ 来館者 オープンから692日目で100万人来館
（図書館） 10万5千人/年（H29） → 63万5千人/年（R5）
- ▶ 基本コンセプト
～人を結び、街をつなぎ、情報を発信する場の創造～
 - ・ だれもが気軽に集い、語りあえる人と人との出会い交流の場（交流の拠点）
 - ・ 様々な情報を知ることができ、ともに学び、育てあう場（知と学びの拠点）
 - ・ まちの歴史、文化、観光、市民活動などの情報を発信する場（情報発信の拠点）
 - ・ まちの魅力、資源を再発見する場（気づきの拠点）
 - ・ まちを元気にする活動を支援する場（市民活動支援の拠点）
 - ・ まちの新しい魅力、須賀川らしさを創り出す場（魅力創造の拠点）



本市のこれまでの歩み 複合化、コラボ化

▶ 平成20年 千里文化センター～コラボ～ 開設

図書館、公民館、新千里出張所、保健センター、老人福祉センター（現介護予防センター）の複合施設化とともに、千里文化センター長を配置し、上記施設をまとめる形態をとった。

図書館利用者数 16万4千人/年（H19）→ 28万7千人/年（R5）

▶ 令和5年 庄内コラボセンター～ショコラ～ 開設

千里コラボに次いで、2番目のコラボセンターとして、南部活性化のため庄内文化センターの図書館、公民館、介護予防センターに加え、庄内出張所、庄内保健センター、子育て支援センター、市民公益活動支援センターを複合施設化し、千里コラボ同様、センター長が館内の施設をまとめる形態をとった。

図書館利用者数 5万2千人/年（R4）→ 7万4千人/年（R5）

▶ 効果

センター長による統括の効果が、これまで以上の各施設間の連携が円滑に行われ、賑わいを生み出している。

R6年度連携事業

社会教育主事による図書館・公民館等連携事業①

▶ 社会教育主事とは

社会教育法に基づき教育委員会におかれる専門職員で、社会教育を行う者に対する専門的技術的指導に当たる役割を担う。

▶ 豊中市における社会教育主事の役割

豊中市の社会教育は「地域の人材育成」と位置づけ、関係機関が連携して進めていく。

社会教育の推進に当たっては、社会教育行政機関に計画的に社会教育主事を配置し、初期の人材育成から継続的なフォローアップを行いながら、連携して社会教育をコーディネートする。

■現在の配置状況	社会教育課	2人
	公民館（中央公民館）	1人
	図書館（読書振興課）	1人
■今後について	計画的に関係課に配置していく	

R6年度連携事業

社会教育主事による図書館・公民館等連携事業②

▶ 絵本好きなママパパ集まれ～赤ちゃんに参加する絵本サロン～

- 概要 絵本を通して学び合い、交流し、将来的に地域で活動していくことも視野にいたれた人材育成講座
- 対象 0歳児の子どもとその親
- 会場 名勝西山氏庭園や螢池公民館
- 参加人数 各回9組前後（現在、6回目）
- 所感 参加者は、読み聞かせを聞くところから始めたが、
予定回数後、終了か継続の打診、担当者の提案等により、
今では自分たちで読み聞かせ合うまでになった。
一方、西山氏庭園を絵本サロンの会場として活用し、
こどもの情操教育に資する可能性を感じ、また、西山氏庭園活用の新たなヒントも得られた。



R6年度連携事業 社会教育主事による図書館・公民館等連携事業③



1回目



2回目



3回目



6回目



5回目



4回目

R6年度連携事業

社会教育主事による図書館・公民館等連携事業④

▶ 作って！読んで！レベルアップ 料理クエスト

- 概要 司書のブックトークやクッキングを通して、子どもの知的探求心を育むとともに、第3期豊中市食育推進計画で基本目標にある「おいしく、楽しく、食事をしよう」「食べる物、食べることを大切にしよう」の達成をめざす。同時に、市内高校生や大学生に見守りボランティアとして参加してもらいながら、豊中の子ども食堂事業に関わることで地域活動を身近なものにしようとするもの。
- 対象 小学校5年生、6年生、中学校1年生
- 会場 螢池公民館
- 参加人数 各回7人前後（現在、3回目）
- 所感 回数を重ねるごとに、料理や食材に関する本から知識を得る楽しさ、料理の楽しさ、食事を大切にいただく気持ちが子どもたちに伝わりつつあると感じる。今後は、子ども食堂が「まちの居場所」であると同時に、自分の居場所でもあることを知り、その担い手に自然となるよう事業を進めたい。



R6年度連携事業

社会教育主事による図書館・公民館等連携事業⑤

▶ 地域でパパママの繋がりをつくる連続講座 子育て部

司書による読み聞かせを行いつつ、子育て中の保護者の地域活動への参加を促すきっかけを作るとともに、地域で保護者同士のつながりを作り、助け合える環境作りを行う。

また、蛍池公民館主催イベント「夢フェスタ☆ほたる」で参加者が企画・出店に携わることを目的とする。

▶ 千里なぞときまちあるき～千里の道も一歩から～

千里地域に住む子どもと保護者に地域を知ってもらう機会とするとともに、地域への愛着を育み、地域貢献の思いを育てる。

また、謎解き用の謎は、募集した市民参加者が中心となって作成するとともに、謎解きマスターとなってもらい謎解きに参加者のフォローをしてもらうことを目的とする。次年度には、蛍池図書館中心にルシーオーレを使った謎解きや、岡町図書館でも取り組む予定。



これからの螢池図書館 ～サービス～

鳥瞰図



コンセプト



イベント

- ・ 大人向け・子どもむけ・親子向け・多世代交流イベント
- ・ 公民館・社会教育課・ルシオーレ内施設と連携したイベント
- ・ 館内のごろごろゾーン、飲食可能閲覧スペース、¹⁰ 自学自習スペースを使ったイベント

豊中市（仮称）中央図書館基本構想の推進

○令和2年度（2020年度）

「豊中市（仮称）中央図書館基本構想」策定

- ▶（仮称）中央図書館を核とした新たなサービス網の構築

○令和4年度（2022年度）

「豊中市立図書館みらいプラン」策定

- ▶基本構想の施設配置及び新たなサービスを具現化
 - ・施設配置

中央館	候補地を3か所選定
地域館	庄内・千里図書館
分館	野畑・東豊中・高川・螢池図書館
サービスポイント	いぶき・豊中駅周辺・緑地公園駅周辺 ※中央館の候補地に応じ服部

- ・新たなサービス展開
 - ☐多世代滞在型の機能展開
 - ☐電子書籍の拡充
 - ☐新規登録の電子化 など

（仮称）中央図書館の概要

規模	約5,000㎡（蔵書数55万冊）を想定
開館時期	令和10～11年度（2028～2029年度）
場所	曽根駅前の民有地を第一優先候補地に選定（令和5年度）
機能イメージ	・「行ってみたい」と思える図書館 ・人と人をつなぎ、まちを元気に ・地域館や分館の支援体制の充実 ・すべての人が利用しやすい図書館に
役割	・課題解決に役立つ専門書など充実した蔵書 ・選書の実施 ・レファレンスなど専門性の高いサービスの中核 ・地域館、分館、SP、学校図書館への支援拠点 ・市民交流や情報発信の中心 ・多様な目的に応じた快適な閲覧環境 ・多目的なオープンスペース

○令和6年度（2024年度）

「豊中市（仮称）中央図書館整備計画」策定予定

まとめ

▶ 他市事例から

近年、図書館を核とした複合施設化により賑わいを生み出している

▶ 本市の取り組みから

- ・ 複合化（コラボ化）及びセンター長の配置による連携効果の向上（賑わいの創出）
- ・ 令和6年度から、図書館や公民館などの社会教育施設を連携させた、人材育成に資する連続講座を実施し、連携による相乗効果が向上
- ・ 令和7年度 螢池図書館リニューアル
- ・ 令和10年度～令和11年度 （仮称）中央図書館開館予定

図書館及び公民館の今後の連携のありかた

▶ これからの図書館に求められるもの

誰もが憩える空間

▶ これからの公民館に求められるもの

市民の誰でもが学べる場の提供

地域人材の育成

▶ 図書館と公民館のさらなる連携

螢池図書館のリニューアルオープン（R7）を機に、図書館と公民館の一体的な運用の試行

ex) 図書館がグループづくりのきっかけを担い、恒常的な活動を公民館がフォローする

→ サービスの質の向上

（仮称）中央図書館、中央公民館、文芸センター 教育文化3施設の事業連携の検討

▶ 図書館と公民館の新たな体制の検討

（仮称）中央図書館の開館時に合わせ、図書館と公民館のシームレスな連携に最適な体制の検討